

貯 法：乾燥空气中で風解するので、密栓して室温保存すること。

使用期限：3年（ラベルに表示の使用期限を参照すること。）

承認番号	22000AMX01636
薬価収載	2008年11月
販売開始	2008年11月
再評価結果	1998年3月

中枢興奮・鎮痛剤

劇薬

カフェイン水和物原末「マルイシ」

日本薬局方 カフェイン水和物

【組成・性状】

- 組成：本品1g中 日局カフェイン水和物1g 含有。
- 性状：白色の柔らかい結晶又は粉末で、においはなく、味はやや苦い。
クロロホルムに溶けやすく、水、酢酸(100)又は無水酢酸にやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくい。
本品1.0gを水100mLに溶かした液のpHは5.5～6.5である。
乾燥空气中で風解する。

【効能・効果】

ねむけ、倦怠感、
血管拡張性及び脳圧亢進性頭痛（片頭痛、高血圧性頭痛、カフェイン禁断性頭痛など）

【用法・用量】

カフェイン水和物として、通常成人1回0.1～0.3gを1日2～3回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

- 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
 - 胃潰瘍又はその既往歴のある患者〔胃液分泌を促進するため、悪影響を及ぼすおそれがある。〕
 - 心疾患のある患者〔徐脈又は頻脈を起こすことがある。〕
 - 緑内障の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

2. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
キサンチン系薬剤 (アミノフィリン水和物、ジプロフィリン、テオフィリン等) 中枢神経興奮薬	過度の中枢神経刺激作用があらわれることがある。	併用薬の代謝・排泄を遅延させることがある。
MAO阻害剤	頻脈、血圧上昇等があらわれることがある。	
シメチジン	過度の中枢神経刺激作用があらわれることがある。	本剤の代謝・排泄を遅延させることがある。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

その他の副作用

大量投与：振せん、不整脈、虚脱、めまい、不眠、不安、瞳孔散大等

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

胎盤を通過し、また母乳中に容易に移行するので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦には長期連用を避けること。

6. 過量投与

徴候、症状：消化器症状(悪心、嘔吐等)、循環器症状(不整脈、血圧上昇等)、精神神経症状(痙攣、昏睡)、呼吸器症状(呼吸促進、呼吸麻痺等)などの増悪を起こすことがある。

処 置：胃洗浄や吸着剤・下剤の投与により薬物を除去し、輸液等により排泄促進を行う。また、興奮状態には対症療法としてジアゼパム注、フェノバルビタール注などの中枢神経抑制薬投与を考慮し、呼吸管理を実施する。

【薬効薬理】^{1), 2)}

1. 中枢神経系に対する作用

大脳皮質を中心として中枢神経系を興奮させ、脳幹網様体の賦活系を刺激することにより知覚を鋭敏にし、精神機能を亢進させる。

2. 脳血管に対する作用

脳細動脈に直接作用して脳血管を収縮し、その抵抗性を増加させ、脳血流量を減少させる。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：カフェイン水和物 (Caffeine Hydrate)

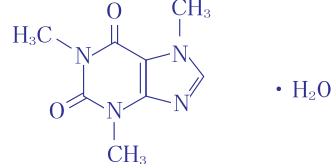
化学名：1, 3, 7-Trimethyl-1H-purine-2, 6-(3H, 7H)-dione monohydrate

分子式：C₈H₁₀N₄O₂ · H₂O

分子量：212.21

融点：235～238℃（乾燥後）

構造式：



【包 装】

25 g 500 g

【主要文献】

- 熊谷 洋他：臨床薬理学大系，第2巻，107（1972）
- 羽野 壽他：新しい薬理学，第2版，79（1983）

【文献請求先】

丸石製薬株式会社 学術情報グループ
〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-2
TEL. 0120-014-561

製造販売元

丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2